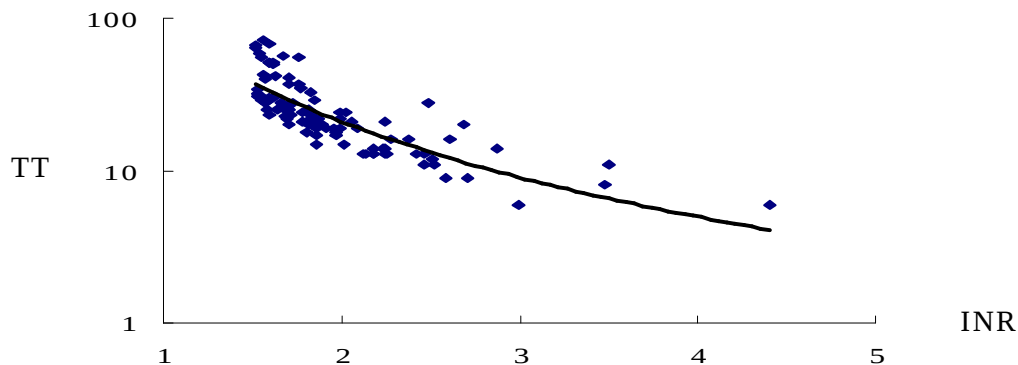


臨床検査ニュース

平成 12 年 4 月 20 日

トロンボテストは時代遅れ

血栓症予防におけるワーファリン投与中の凝固能のモニタリングとして、日本ではトロンボテストが古くから使われてきました。しかし、現在では PT の INR (International Normalized Ratio) 表示が全国的に勧められています。それは INR が、各施設で使用されている試薬間差を補正し、かつ国際比較が可能であるからです。検査部においても近いうちに、トロンボテストを廃止して INR で一本化する予定です。参考までに当院検査部で測定された 206 例のトロンボテストと INR の相関図を示します。



治療にあたってのモニタリングとしては、トロンボテストと INR のどちらを行えば十分です。そのため保険点数による評価においても、同時にこの 2 つの検査を行った場合は、一方のみの請求となります。上の図の近似曲線から得られたトロンボテストと INR の相関表を載せておきます。まだトロンボテストでモニタリングをしている先生は、INR への切り替えのときに参考にしてください。尚、INR の場合は早朝迅速検査の利用が可能です。

TT	INR	推奨 INR	範囲の適応症	範囲の適応症
44	1.5		深部静脈血栓症の予防	機械的人工心臓弁
22	2		心房細動、全身性塞栓症の防止	
12	2.5		心臓弁膜疾患、組織性心臓弁	
8	3		急性心筋梗塞	
5	3.5		深部静脈血栓症の治療	
4	4		肺塞栓の治療	

(推奨 INR と適応症に関しては Hirsh J, et al : Chest 102 : 312 ,1992 より抜粋、一部変更)

編集 : 臨床病理科 検査医 腰原 公人

内線 3559 PB-323

(Clinical Test News No.2/2000. 4)